



各 位

平成 17年 11月 1日

会 社 名 **若築建設株式会社**
代 表 者 名 取締役社長 彦坂 義助
(コート番号 1888 東証第 1部)
問 合 せ 先 経理部長 衣非 勉
TEL (03) 3492 - 0273

業績予想の修正および固定資産減損会計の適用に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成17年5月27日の決算発表時に公表した業績予想の修正および「固定資産の減損に係る会計基準」の適用に伴う特別損失の計上について下記のとおりお知らせいたします。

記

業績予想の修正

1.平成18年 3月期中間 (個別)業績予想数値の修正 (平成17年4月1日 ~ 平成17年9月30日)

(単位 :百万円、%)

	売上高	経常利益	中間純利益
前回発表予想(A) (平成 17年 5月 27日 発表)	28,000	900	800
今回修正予想(B)	37,300	1,350	250
増減額(B - A)	9,300	2,250	1,050
増減率	33.2	-	-
前中間期 (平成16年 9月期) 実績	28,333	285	229

2.平成18年 3月期中間 (連結)業績予想数値の修正 (平成17年4月1日 ~ 平成17年9月30日)

(単位 :百万円、%)

	売上高	経常利益	中間純利益
前回発表予想(A) (平成 17年 5月 27日 発表)	30,000	400	300
今回修正予想(B)	38,200	2,200	1,200
増減額(B - A)	8,200	2,600	1,500
増減率	27.3	-	-
前中間期 (平成16年 9月期) 実績	29,708	2,282	2,349

3.平成18年 3月期通期 (個別)業績予想数値の修正 (平成17年4月1日 ~ 平成18年3月31日)

(単位:百万円、%)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A) (平成17年5月27日発表)	90,000	1,300	400
今回修正予想(B)	96,000	1,600	450
増減額(B - A)	6,000	300	50
増減率	6.7	23.1	12.5
前期(平成17年3月期)実績	81,341	372	122

4.平成18年 3月期通期 (連結)業績予想数値の修正 (平成17年4月1日 ~ 平成18年3月31日)

(単位:百万円、%)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A) (平成17年5月27日発表)	93,000	2,100	1,200
今回修正予想(B)	99,000	2,800	1,700
増減額(B - A)	6,000	700	500
増減率	6.5	33.3	41.7
前期(平成17年3月期)実績	84,461	4,603	4,325

5.修正の理由

(1) 中間業績予想

(個別)

中間期における売上高につきましては、前回予想の280億円を93億円上回る、373億円となる見込みです。その主たる理由は、不動産事業において大型物件の売却が実現したことによるものです。

利益面につきましては、経常利益は前回予想の9億円から、22.5億円増の13.5億円となる見込みです。その主たる理由は、高採算の販売用不動産の売却により不動産利益が増加するためです。また、当中間期において減損損失、前期損益修正損等の特別損失5億円を計上した結果、中間純利益は前回予想の8億円から10.5億円増の2.5億円となる見込みです。

(連結)

主に、個別中間業績予想の修正に伴うものと、持分法適用関連会社の業績向上によるものです。

(2) 通期業績予想

(個別)

通期における売上高につきましては、前回予想の900億円を60億円上回る、960億円となる見込みです。その主たる理由は、中間期における不動産事業の売上高増が通期の売上高に影響するためです。

利益面につきましては、中間期における不動産利益の増加等により、経常利益は前回予想の13億円から3億円増の16億円となり、当期純利益は前回予想の4億円から0.5億円増の4.5億円となる見込みです。

(連結)

主に、個別通期業績予想の修正に伴うものと、持分法適用関連会社の業績向上によるものです。

・固定資産の減損に係る会計基準」の適用に伴う損失の計上

当社が保有する事業用固定資産を対象に減損処理を行った結果、中間期において、減損損失1.8億円(個別・連結同額)を特別損失に計上する見込みです。

以上